

LinkRunner® G2 をお勧めする6つの理由

LinkRunner G2 と LinkRunner AT はいずれもイーサネットアクセスネットワークの検証とトラブルシューティングを支援するネットワークテスターですが、LinkRunner G2 は Android ベースのオペレーティングシステムとスマートフォンのようなユーザーインターフェイスを備えた次世代ネットワークテスターです。

LinkRunner G2 には、LinkRunner AT を卓越した可視性、汎用性、および付加価値を提供するテスト機能が含まれています。LinkRunner G2 では次のような6つの優位点があります。



LinkRunner® G2

LinkRunner® AT

1. 完全な PoE 検証

IEEE 802.3bt 90W PSE まで対応の負荷試験により、電圧および電力を検証。PoE インジェクタの電圧検証

2. Wi-Fi AP や VoIP 展開に必要なネットワーク環境を容易に確認

VLAN可視化に加え、Wi-Fi/VoIP 環境における DHCPオプションに対応し、環境検証を容易で確実に実施可能。DHCP オプション 43、60、150 をサポート

3. AutoTest の柔軟性により、ニーズに合わせた試験を提供

AutoTest (自動テスト)は柔軟な停止条件により構築途中の環境でも必要な範囲の試験が可能です。疎通テスト用に無制限のIPターゲット、接続の一貫性を検証する「Continuous(連続)」テスト機能、およびテスト結果とサイトデータ用の大容量の内部および外部ストレージに保存可能

4. スイッチに接続された状態でも、効率的に検証可能

MDF/IDF (接続用パッチパネル)を往復する回数を減らします。リンク問題を検出し、ポート接続を切り替え、写真を撮り、テスト結果に情報を付加できます

5. 高度なトラブルシューティング機能により、障害から迅速に復旧

VLANモニタやパケットキャプチャにより、エスカレーションをあげる際に、関連する詳細情報を得て連絡することにより、問題解決までの時間を短縮

6. Android アプリ利用で標準テスト以外のタスクも簡単に実行

NetAlly AppStore から、スピードテスト、デバイス設定、Webブラウザ、通話アプリ、ネットワークディスカバリ、ワークフロー管理など標準テスト以外のアプリケーションを取得/利用で、テストと同時に効率的な作業を実施可能

特定のネットワーク環境とテストのニーズに応じて、LR-G2 はLRAT-2000よりも優れた可視性、簡便さ、コラボレーションの機会と付加価値を提供します。

機能比較

機能	LRAT-1000	LRAT-2000	LR-G2
90W の PoE 負荷試験			●
PoE インジェクタ試験			●
DHCP オプション 43,60, 150 サポート			●
自動テストで停止条件			●
スイッチに接続された状態でケーブルの検証			●
内蔵カメラ利用で、写真情報や、バーコード・スキャン			●
パケットキャプチャ			●
VLAN トランクポートのテストやモニタ			●
Android アプリを利用しワークフロー遂行			●
30W の PoE 負荷試験		●	●
パフォーマンス・テストのリフレクター		●	●
ケーブル・テスト	●	●	●
スイッチ・テスト	●	●	●
DHCP, DNS, Gateway テスト	●	●	●
IP ターゲットテスト	10	10	無制限
電源	乾電池	専用電池	専用電池
標準価格	¥176,000	¥282,000~	¥398,000~

1. 完全な PoE 検証

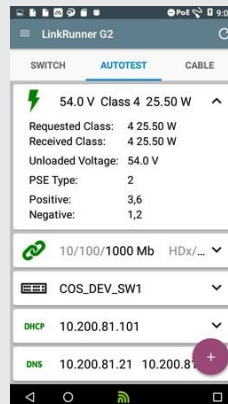
LinkRunner G2は、最大90W IEEE 802.3bt PSE より供給されるPoE パワーをケーブルの末端で電圧/電力を検証できる唯一のツールです。

最大71Wの負荷で電圧降下も含めた検証を行うことが可能です。

また、PoEインジェクタからの10V以上の電圧を検証できます。

ご存じですか？

LinkRunner® G2は、カメラ、ライト、マイク、スピーカを内蔵した市場初のスマートネットワークテストおよび分析ツールであり、スマートフォンを必要とせず、視覚的な証拠で問題を簡単に文書化し、より効果的に共同作業を行うことができます。



IEEE 802.3 bt Class8 PSE からの電圧と電力を確認

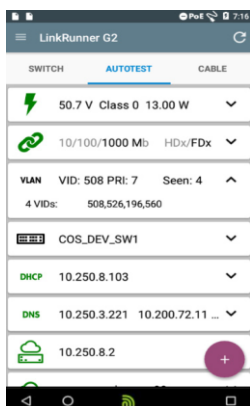
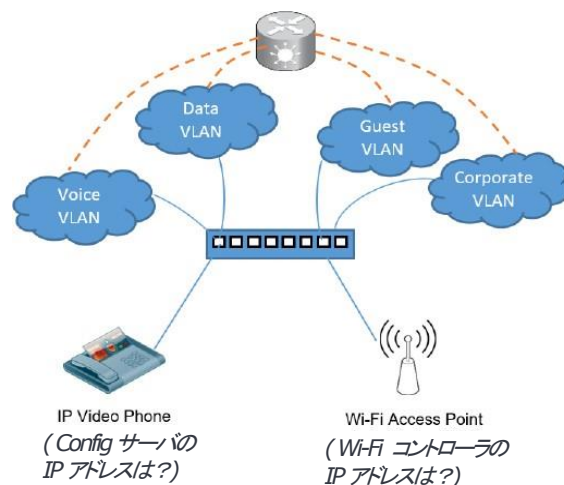


24V PoEインジェクタで使用される電圧とケーブルペアを確認

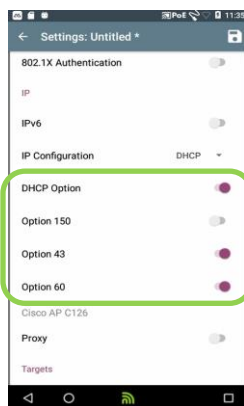
2. Wi-Fi アクセスポイントや VoIP 展開に必要なネットワーク環境を容易に確認

ネットワーク管理者は、多くの場合 Wi-Fi アクセスポイントや VoIP 電話に接続するスイッチに複数のVLANを設定する必要があります。SSID 別にトラフィックを分離し、QoSを管理できます。LinkRunner G2は、自動テスト中にトラフィックを自動的に分析し、特定のスイッチポートに存在するすべてのVLANを表示できます。

VoIP 電話やコントローラベースの Wi-Fi アクセスポイントがネットワークに接続されると、多くの場合、自身を識別して設定情報を取得するために Option60 を使用して DHCP 要求が送信されます。DHCP サーバが Option43 で応答し、Wireless LAN コントローラの IP アドレスと TFTP/Config サーバの IP アドレス用の Option150 を提供します。LinkRunner G2 は、これらの DHCP オプションをサポートしており、自動テスト中に DHCP サーバからの応答を検証します。ネットワークエンジニアは、テストプロファイルを簡単に作成して、ネットワークの VLAN と DHCP オプションが正しく設定されていることを確認できます。



AutoTest はスイッチポートで検出されるすべてのVLANを表示します。



DHCP オプションの設定



DHCP AutoTest の結果とオプションによる応答

3. AutoTestの柔軟性により、ニーズに合わせた試験を提供

スマートオフィスビルプロジェクトや、デジタル照明またはセキュリティカメラシステムの導入時に、DHCP、ゲートウェイ、インターネットサービスなどの一部のネットワークサービスがインストールまたはプロビジョニングされていない場合があります。LinkRunner G2 の自動テストは「停止条件」を設定することができます。これを設定すると構築途中で未導入のサービスのテストを自動テストで停止でき、時間を節約して適切な合格/不合格評価を実施できます。

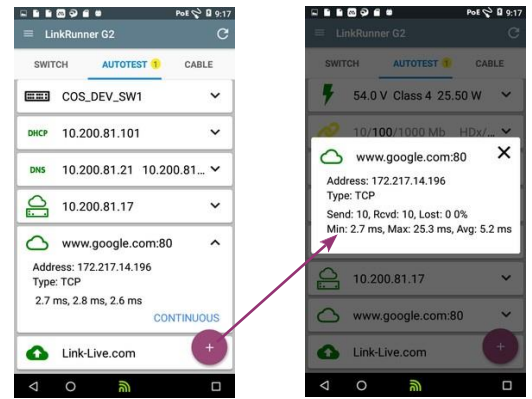
大規模なネットワークでは、接続を確認する必要がある多数のサーバまたはキーデバイスがあります。LinkRunner G2 は、無制限のIPターゲットに対する Ping または TCP 接続テストをサポートしています。さらに、テスト対象の各ターゲットとデフォルト・ゲートウェイに対して、継続的な ping を実行して安定した接続応答を確認できます。

LinkRunner G2 は4GB の内部ストレージを持ち、標準で8GB の MicroSD カードを搭載し、数百件のテスト結果、画像、サイトデータを一時的に保存できます。電源を切ってもデータは失われません。LinkRunner G2 がインターネット経由で Link-Live クラウドに接続すると、ユニットに保存されているすべてのテスト結果とサイトデータは自動的にアップロードされます。

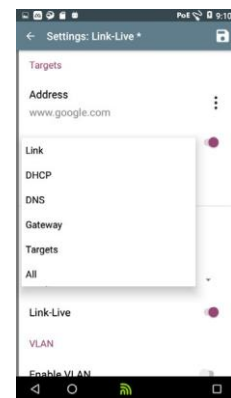
4. スイッチに接続された状態でも、効率的に検証可能

ケーブルテスターとは異なり、LinkRunner G2 ネットワークテスター は、ケーブルをスイッチから取り外すことなく、ケーブルとネットワークの両方を確認可能です。クライアントの場所と MDF/IDF の間を行き来する必要がなくなるため、時間を大幅に節約できます。

LinkRunner G2 は、スイッチポートによってアドバタイズされた速度を検出し、最高速度で接続できるかどうかを確認します。スイッチから通知された最速で接続できない場合は、リンクテストの結果が黄色で強調表示されます。ほとんどのギガビット・イーサネットスイッチでは、この問題はケーブル上にオープンペアが存在するため発生します。LinkRunner G2 でそのままケーブル検査を実施すると、オープンとなっている 4/5 または 7/8 ペアのケーブル長が表示されます。



無制限の宛先に対して「TCP接続」テストを実行します。「CONTINUOUS (連続)」機能を使用してテストを継続的に実行し、ターゲットの接続性とレスポンス・タイムの整合性を評価します。

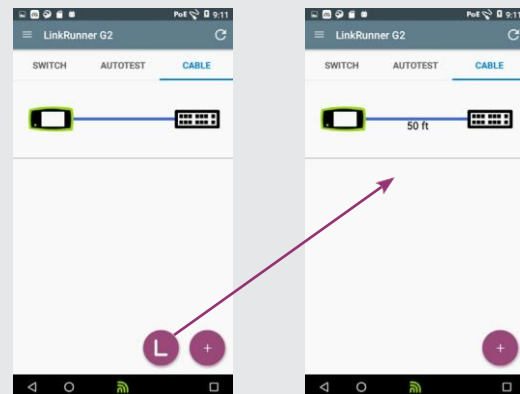


適用済みネットワークサービスまでをテストする自動テスト「Stop After」機能

オートテストでは、スイッチが 1G でアドバタイズされていますが、テスターは 100Mbps でしかリンクできません。



LinkRunner G2 は、10/100Mbps のスイッチに接続すると、4/5 または 7/8 のオープンペアをテストできません。L マークの FAB (フローティングアグネンボス) が表示されます。FAB を押すと、ペア 4/5 または 7/8 の最も近いオープンペアまでの距離が表示されます。



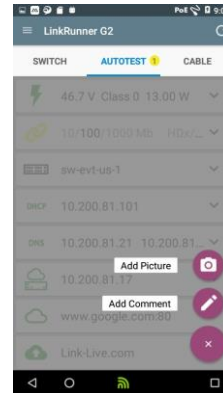
LinkRunner ATと同様に、LinkRunner G2はIntellitoneプローブと互換性のあるデジタルトーンを生成し、ケーブルがスイッチに接続されているパッチパネル/クロスコネクタ周辺のケーブルをトレースします。接続されているスイッチがCDP/LLDPをサポートしている場合、LinkRunner G2は接続されているスイッチの名前とポートも表示できるため、IDFでのケーブルトレースがさらに簡単になります。

自動テストの結果に関連する環境情報をより多く収集することを好む方もいます。これには、Wi-Fiアクセスポイントの配置、ケーブルジャック/ウォールプレートの状態、または機器のシリアル番号のイメージが含まれます。LinkRunner G2にはカメラとライトがついているので、暗い場所でも写真を撮ることができます。ケーブル/ウォールプレートのラベルなどのコメントを追加することもできます。LinkRunner G2は、すべてのイメージとコメントを自動的に保存し、最後の自動テスト結果に関連付けます。

5. 高度なトラブルシューティング機能により、障害から迅速に復旧

LinkRunner G2は、オンサイト技術者がより詳細な分析を行い、より多くの情報を収集し問題のエスカレーションを効率的に行うため、より詳細なトラブルシューティング機能を提供します。

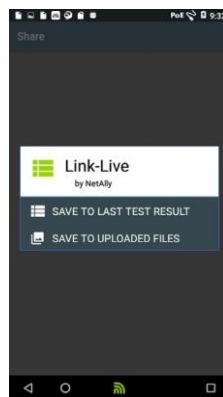
- 最大2GB、フレームサイズ最大9600バイトの packets キャプチャ。
パフォーマンスおよびベンダーソフトウェアバグの問題を解決するための証拠を収集します。パケットキャプチャデータはLink-Liveにアップロードできます。LinkRunner G2は、USB経由で安価なギガビットタップにも接続でき、クライアントとスイッチ間のインラインキャプチャにも対応しています。
- VLANトラフィックモニターは、適切なプロビジョニングを確実にするために、上位VLANからのトラフィックの累積的な分散を表示します。



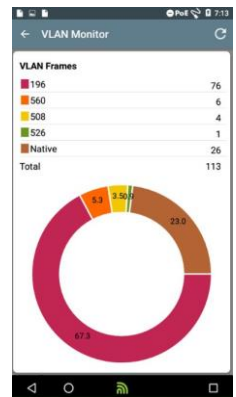
本体で直接写真を撮影し、コメントなどを追加し、結果に添える



暗い場所でも、フラッシュを利用し撮影可能



キャプチャされたパケットは、最後のテスト結果に関連付けられ、Link-Liveにアップロードされます。



VLANモニターは、トランクポート上の最大9つのVLANタグ付きトラフィックの分布を表示します。

6. Androidアプリ利用で標準テスト以外のタスクも簡単に実行

LinkRunner G2は、追加のツールを持ち運ぶことなく、技術者がオンサイトでより多くのタスクを実行できるようにします。Link-LiveのアプリストアからLinkRunner G2で利用できる多種多様なAndroidアプリは、LinkRunner G2の機能を強化することで、利便性とシンプルさを向上させます。

- 製造元のアプリケーション、SSH、またはWebブラウザを使用して、ネットワークデバイスやIoTデバイスを構成。
- バーコード、QRコードや印刷ラベルをスキャンして、ネットワーク要素とケーブル配線を文書化。
- トラブルチケット・システムとの連携、Eメール、電話会議、ソフトフォン通話、クラウドストレージなどの企業システムの検証。
- iPerfやSpeed Testなどのアプリケーションを使用して、ネットワークやデバイスの機能テストを実行。

LinkRunner G2上のAndroidアプリは、結果やスクリーンショットを簡単にLink-Liveに共有できます。

テスト	業務効率化	機器設定
  インターネット スピードテスト iPerfテスト	   リモート コントロール Eメール Webブラウザ	   デバイス設定 ラベルプリント QRコードスキャン

LinkRunner G2で利用できるAndroidアプリの例